

社保シリーズ

ダツリ再セットと処置

2

社保研究部

2012年診療報酬改定では日常臨床で頻出する処置などの項目がわずかながら増点になった。また、歯管などの算定要件が一部緩和されている。以下症例で解説する。

症例解説

初診日は脱離やC病名で治療計画を立て、歯管を算定し、7月に入って歯周病検査をし、改めて歯管を算定している。初診月にP・G病名を含まない主訴に対して治療計画を立てて歯管を算定し、再診月以降に歯周病検査をしてP・G病名を含む1口腔単位の治療に計画変更しても、歯管が算定できることが今回の改定で明記された。

さて、初診日に6]のダツリ再セットに際し、う蝕処置18点を算定している。この場合、ダツリ病名に加えてC病名が必要になる。また、装着料は補綴物、修復物によらず45点に統一されたため、従来30点であったメタルコアの再装着料やCRインレーの装着料も45点になった。本症例のようにFMC、メタルコアともに脱離し、再装着した場合には、それぞれに装着料と装着材料料とが算定できる。また、症例は失活歯だが、生活歯でインレーやFMCがダツリした場合は、う蝕処置、歯髄保護処置が併せて算定できる。このときもC病名が必要で「〇〇ダツリ、C」とする。

この他、6月分の症例では、間接歯髄保護処置25→30点、KP(複)80→86点、BT14→16点、連imp60→62点、浸麻23→30点、除去(単)15→16点に引き上げられている。

浸麻は形成(充形、修形、KP、PZ)を伴う場合には算定できないが、6月15日のように、う蝕→間PCapにとどまる場合には算定できる。また、修復物のセットの際も算定することができる。

歯髄保護処置は、同一歯に2カ所以上のう蝕が存在し、それぞれ日を異にして実施しても1歯1回限りの算定となる。ただし、う蝕処置に関しては1歯単位で実施した回数分だけ算定することができる。

歯管の文書提供の間隔は4カ月に1回以上に変更されているが、症例では、治療計画が変更になるため前回の文書提供から4カ月経過していなくても再度の文書提供が必要になる。

歯清は歯管の加算点数から処置点数として独立した。対象疾患はP・Gで、歯管の算定が前提であることには変わりはないが、歯管を算定した日以降であれば同日でなくても算定できるようになった。また、6歳未満では100分の50加算の対象になる。

初回の歯管算定は、主訴に対する計画治療への同意でも算定ができる。

メタルコアとFMCのそれぞれがダツリし、再セットした場合、再装着料は45×2になる。同様に装着材料料もそれぞれ算定できる。

形成まで至らなければう蝕処置、歯髄保護処置に対する浸麻料は算定できる。

歯管修復物のセットの際には、浸麻は算定できる。

初回の歯管を、主訴に基づく計画治療で算定した後、P病名などで1口腔単位の計画治療に変更した場合でも算定できる。その際は、4カ月経過していなくても文書提供が必要になる。

部位	傷病名	診療開始日
6]	FMCダツリ,メタルコアダツリ,C	24年6月15日
5 4]	C2	24年6月15日
7— —7 7— —7	P1	24年7月5日
〔年齢〕63歳女性		
〔主訴〕右上の詰め物がとれた。		
〔所見〕6] Cによるダツリ, 5 4] 隣接面にう蝕認める。		

月日	部位	療法・処置	点数
6/15		初診	218
	6 5 4]	X-R a y (D) 1 F (電)	58
		6] 根充良好. 5 4] 隣接面にう蝕を認む.	/
		歯管(文書提供)	110
		う蝕部位を指摘し, 治療計画への同意を得る.	/
	6]	う蝕(軟化象牙質除去)	18
		メタルコア再装着	45
		FMC再装着	45
		接着材料I(ケミエースII) (16×2)	32
	5]	浸麻(OA+歯科用キシロカインC t 1.8mL) (30+6)	36
		ア充除去	16
		う蝕(軟化象牙質除去)	18
		間P C a p(アイオノマーセメント)	30
6/22		再診	42
	5 4]	浸麻(OA+歯科用キシロカインC t 1.8mL)	/
	4]	ア充除去	/
		修形(MOD)	120
	5]	K P(MOD)	86
	5 4]	連i m p(寒天+アルジネート) (62×2)	124
		B T (16×2)	32
6/29		再診	42
	5 4]	浸麻(OA+歯科用キシロカインC t 1.8mL) (30+6)	36
	4]	クリアフィルCRインレー(MOD) s e t (191+45)	236
		接着材料I(パナビア)	16
	5]	金パラMC(MOD) s e t (455+45)	500
		接着材料I(パナビア)	16
6月分 3日分 1,876点			
7/5		再診	42
	7— —7 7— —7	パノラマX-R a y (パ電)	402
		全体に軽度の骨吸収あり.	/
		P基検(検査結果略)	200
		歯管(文書提供2回目)	110
		全顎の沈着歯石を除去することを確認.	/
	7— —7	S C (66+38×2)	142
		P基処(アクリノール)	10
7/12		再診	42
	7— —7	S C (66+38×2)	142
	7— —7 7— —7	歯清	60
7/26		再診	42
	7— —7 7— —7	P基検(検査結果略) (200×50/100)	100
		病状の安定を確認	/
7月分 3日分 1,292点			